

第 23 回 口腔顔面神経機能学会学術大会

プログラム・抄録集

期 日

2019 年 3 月 9 日（土）・10 日（日）

会 場

松本歯科大学図書会館 2 階学生ホール

大会長 澁谷 徹

松本歯科大学歯科麻酔学講座

〒399-0781 長野県塩尻市広丘郷原 1780

Tel: 0263-51-2126 Fax: 0263-51-2126

第 23 回口腔顔面神経機能学会学術大会に参加される皆様へ

1. 参加登録

参加受付は、松本歯科大学図書会館 2 階学生ホール前のロビーで行います。参加申し込み用紙に必要事項をご記入の上、参加費のお支払いと引き換えに参加証をお受け取りください。

学会参加費： 2,000 円

2. 役員の先生方へ

3 月 9 日（土）11：30 から、役員理事会を開催いたします。創立 30 年記念棟 3 階会議室（前穂高・奥穂高）にお集まりください。昼食をご準備いたします。

3. 発表される皆様へ

一般口演の発表時間は、発表 6 分、質疑応答 3 分で行います。時間厳守をお願いいたします。発表データは Microsoft PowerPoint で作成いただき、CD-R または USB メモリーに保存してデータをご持参ください。

スライドは単写、PowerPoint Windows 版で行います。Macintosh を使用される場合には、ご自身の PC と変換アダプタをお持ちください。

演者受付は 11：00 から会場前の受付で行います。発表するセッション開始 30 分前までに受付の PC にデータをご提出ください。なお、学術大会終了後、お預かりしたデータは速やかに消去いたします。

4. 事後抄録について

演題番号、演題名、所属、発表者（演者に○）および 1,200～1,500 字程度の抄録を Microsoft Word で作成し、データと印刷したもの 1 部を受付にご提出ください。本文以外に写真、図表の掲載も可能です。

5. 座長の皆様へ

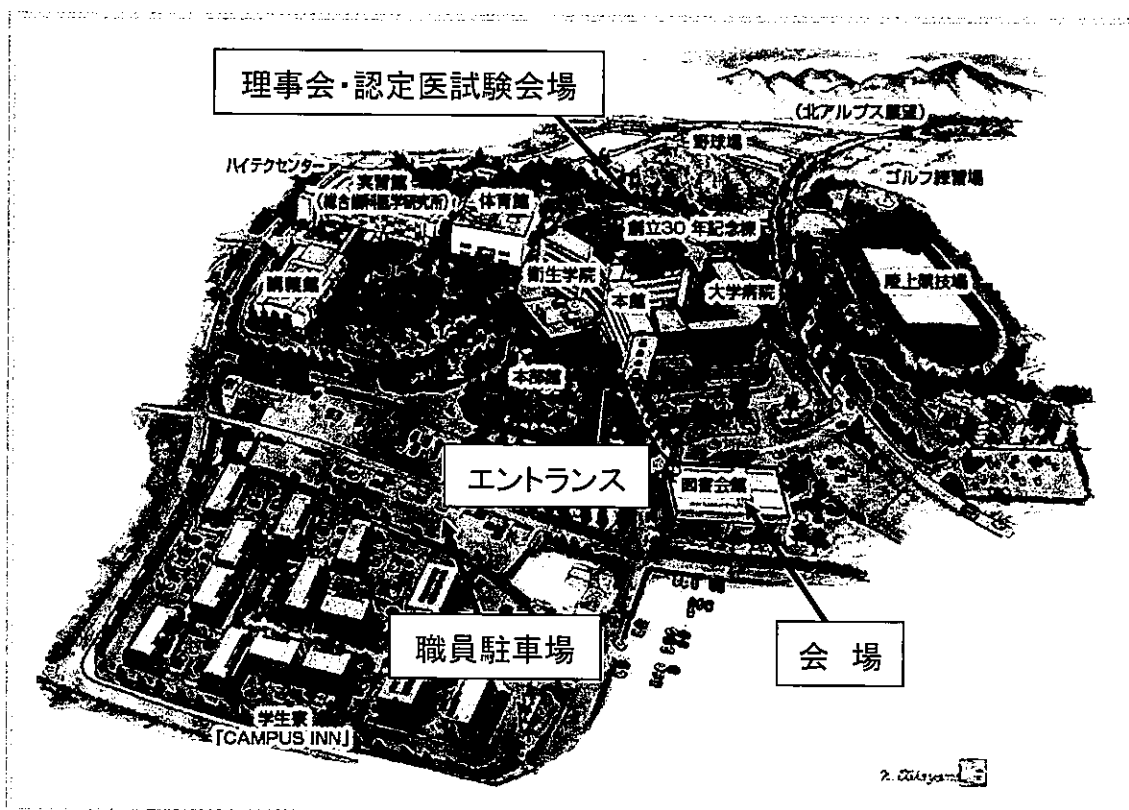
座長の先生方は、担当セッション開始 10 分前までに「次座長席」にご着席ください。セッション中の進行は座長の先生方にご一任いたします。ただし、時間厳守へのご協力をお願いいたします。

学術大会会場へのアクセス

会 場

松本歯科大学図書館 2 階学生ホール

〒399-0781 長野県塩尻市広丘郷原 1780



電車でお越しの方

JR 中央東線：新宿 — 塩尻（特急あずさ・スーパーあずさで約 2 時間 30 分）

JR 中央西線：名古屋 — 塩尻（特急しなので約 2 時間）

JR 篠ノ井線：長野 — 塩尻（特急しなので約 1 時間）

JR 塩尻駅下車 タクシーで約 5 分

塩尻駅—大学間のシャトルバスもありますのでご利用ください。

お車でお越しの方

長野道・塩尻インターから約 10 分

職員駐車場をご利用ください。

【JR 塩尻駅からのシャトルバスのご案内】

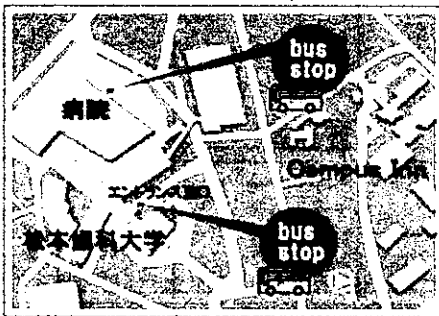
塩尻駅発

時	平日	土曜
7	50	50
8	15 30 45	15 30 45
9	00 20 40	00 20 40
10	10 40	10 40
11	10 40	10 40
12	10 40	00 30
13	10 40	00
14	10 40	00
15	10 40	00
16	10 40	00
17	00 15 30 55	00
18	10 30	
19	00	

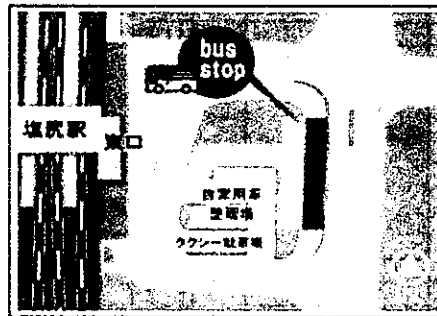
大学発

時	平日	土曜
7		
8	10 30 45	10 30 45
9	00 20 40	00 20 40
10	10 40	10 40
11	10 40	10 40
12	10 40	00 40
13	10 40	00 40
14	10 40	30
15	10 40	30
16	10 40	30
17	00 15 40 55	45
18	10 30 45	
19	30	

大学 バス乗り場



塩尻駅 バス乗り場



※病院入口及びエントランス東口から乗降できます。
ただし、19時以降はエントランス東口のみ発着となります。

日程表

3月9日(土)

3月10日(日)

	図書会館2階 学生ホール	創立30年記念棟 3階会議室 (前穂高・奥穂高)			図書会館2階 学生ホール	創立30年記念棟 3階会議室 (常念岳)	創立30年記念棟 3階会議室 (前穂高・奥穂高)
8:00				8:00		8:00~9:30 認定医試験 (筆記試験)	
					8:15~9:30 スキルアップセミナー		
9:00				9:00			
							9:30~ 認定医試験(面接)
10:00				10:00	10:00~12:00 精密触覚機能検査 研修会		
11:00	11:00~受付			11:00			
		11:30~12:30 理事会					
12:00				12:00	12:00~12:30 講師講習会		
	開会の辞						
13:00	13:00~14:00 特別講演						
14:00	14:10~14:40 総会						
15:00	15:00~15:40 一般演題Ⅰ						
	15:40~16:10 一般演題Ⅱ						
16:00	16:10~16:40 一般演題Ⅲ						
17:00	17:00~ アドバンスセミナー						
	閉会の辞						

プログラム

3月9日(土)

11:30~12:30 役員理事会

12:55~ 開会の辞

13:00~14:00 特別講演

座長 澁谷 徹(松本歯科大学歯科麻酔学講座)

『顎顔面領域における神経障害性疼痛の分子基盤』

松本歯科大学口腔解剖学講座 金銅 英二 教授

14:10~14:40 総会

15:00~15:40 一般演題 I

座長 飯田 征二(岡山大学大学院医歯学総合研究科 顎口腔再建外科学分野)

1. 下顎枝矢状分割術術後のオトガイ部知覚異常発症に関連する因子の解析

1) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 口腔顎顔面外科学分野

2) 宮崎県立宮崎病院 歯科口腔外科

3) 鹿児島医療センター 歯科口腔外科

○ 柚木寿理¹⁾、中園賢太¹⁾、東翔太朗¹⁾、上栗裕平¹⁾、成 昌典¹⁾、野村綾子¹⁾、
古閑 崇¹⁾、品川憲穂¹⁾、本庄希江¹⁾、吉村卓也¹⁾、湊上貴央¹⁾、松本幸三²⁾、
手塚征宏¹⁾、鈴木 甫¹⁾、岐部俊郎¹⁾、石田喬之¹⁾、中村康典³⁾、大河内孝子¹⁾、
石畑清秀¹⁾、野添悦郎¹⁾、中村典史¹⁾

2. Obgeweser II 法骨切り術後の知覚回復過程

—特に自覚症状の記録・記載方法についての1考察—

1) 社会医療法人大道会 森之宮病院 歯科診療部

2) 同ボバース記念病院 歯科診療部

○ 高崎義人¹⁾、兵頭美穂¹⁾、猪飼祥子^{1, 2)}、旭 吉直^{1, 2)}、大道士郎^{1, 2)}

3. 下歯槽神経温存した下顎骨骨髓炎による区域切除術の1例

大阪警察病院 歯科口腔外科

○石濱孝二、田中徳昭、原 崇之、外川健史

4. 顎口腔領域に発生した良性軟部組織腫瘍において知覚神経を温存し摘出した2例

大阪警察病院 歯科口腔外科

○原 崇之、田中徳昭、外川健史、石濱孝二

15:40~16:10 一般演題 II

座長 小林 明子 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)

顎顔面顎部機能再建学系 顎顔面機能修復学講座顎顔面外科学)

5. デンタルインプラント埋入による下歯槽神経障害に対しフィクスチャー挙上を選択した
1症例

1) 医療法人社団ムラヤマ歯科

2) 東京歯科大学口腔外科

3) 松本歯科大学総合診療科

○村山雅人^{1, 2)}、村山偉知朗^{1, 3)}

6. 耳前部における耳介側頭神経の走行に関する解剖学的研究

1) 奥羽大学歯学部口腔外科学講座口腔外科学分野

2) 会津中央病院歯科口腔医療センター

○臼田真浩¹⁾、浜田智弘²⁾、御代田 駿¹⁾、高橋文太郎¹⁾、川嶋雅之¹⁾、神林直大¹⁾、
川原一郎¹⁾、金 秀樹¹⁾、高田 訓¹⁾

7. ミクログリア KCNMB3 による神経障害性疼痛の制御

1) 九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面外科分野

2) 九州大学大学院歯学研究院口腔機能分子科学分野

○今利一寿^{1, 2)}、石井広太郎¹⁾、矢内雄太¹⁾、大山順子¹⁾、熊丸 渉¹⁾、森 悦秀¹⁾、
林 良憲²⁾

16:10～16:40 一般演題 III

座長 石濱 孝二 (大阪警察病院 歯科口腔外科)

8. 東京医科歯科大学顎顔面外科における下顎水平埋伏智歯抜歯の臨床統計的検討 第4報

- 1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面外科学分野
- 2) 東京山手メディカルセンター 歯科
- 3) 本山デンタルクリニック
- 4) ミエ歯科医院
- 5) みどり小児歯科

○熊谷順也^{1, 2)}、小林明子¹⁾、澤田真人³⁾、望月美江⁴⁾、山崎裕子¹⁾、香月祐子¹⁾、
小杉真智子¹⁾、星 礼子¹⁾、和気 創⁵⁾、依田哲也¹⁾

9. 低速ストレートハンドピースを使用する下顎埋伏智歯摘出術について

- 1) 鹿児島大学医歯学総合研究科口腔顎顔面外科学分野
- 2) アイルランガ大学口腔外科

○エリサ ハイラニ^{1, 2)}、モハメド スバン アミール^{1, 2)}、クーン プラモノ²⁾、
野添悦郎¹⁾、中村典史¹⁾

10. 歯周組織再生剤が原因と考えられたオトガイ神経知覚麻痺の1例

公立学校共済組合九州中央病院歯科口腔外科

○佐々木匡理、碓 竜也、平山真敏、堀之内康文

17:00～ アドバンスセミナー

【講 師】

岡山大学大学院医歯学総合研究科顎口腔再建外科学分野

飯田 征二 先生

社会医療法人大道会 森之宮病院歯科診療部口腔外科

高崎 義人 先生

※ 本セミナーは、口唇・舌感覚異常判定認定医試験受験者に行われるセミナーであり、
神経機能に関わる内容に関するベーシックならびにカレントな話題を取り扱います。
認定医試験受講者は必修してください。また、受験されない方でも参加可能です。

3月10日(日)

8:15~9:30 第3回スキルアップセミナー

座長 澁谷 徹 (松本歯科大学歯科麻酔学講座)

『インプラント治療、下顎智歯抜去の神経障害を防ぐために』

1. 口腔インプラントと神経障害

ー原因とその対策ー

松本歯科大学特別専門口腔診療部門 八上 公利 教授

2. 下顎智歯抜歯後の知覚異常症例

ーパノラマX線写真でどれだけリスクを予測できるかー

松本歯科大学口腔顎顔面外科学講座 芳澤 享子 教授

【特別講演】

『顎顔面領域における神経障害性疼痛の分子基盤』

松本歯科大学口腔解剖学講座 金銅 英二 教授

臨床現場において口腔内、歯や顎関節などに器質的な異常がないにも関わらず痛みを主訴に来院する非歯原性疼痛の患者と遭遇することがある。今では研究が進み病態分類や鑑別方法、効果的な治療法も見出されつつある。今回、我々が用いている神経障害性疼痛モデル動物やヒトを用いた研究結果の一部や臨床応用などを供覧して頂き「痛みについて」活発な討論が出来れば幸いである。

研究1】ラットの下歯槽神経を切断すると眼窩下神経の領域でアロディニアが発症する。三叉神経の第三枝の損傷を受け、第二枝領域が過敏になる病態解明を目指し、三叉神経節内の神経細胞の分布様式を神経損傷マーカーである ATF 3 用いて可視化し、そのデータを 3D 画像ソフトで立体構築した。その結果、投射別細胞局在に重複する場所が明らかになった。

研究2】ラット下歯槽神経切断後の遺伝子動態をリアルタイム PCR にて解析した。また、このモデル動物の延髄に Gabapentin を投与すると電位依存性カルシウムチャンネル $\alpha 2 \delta$ サブユニットの mRNA 発現を抑制した。

研究3】ヒトの手掌に熱刺激を加え逃避時間を調べた。また、同じ被検者の Capsaicin 濃度感受性の閾値も調べた。また頬粘膜サンプルから TRPV1 の遺伝子解析を行い遺伝子多型について解析した。熱刺激や Capsaicin 濃度の反応閾値に関連すると思われる変異箇所が明らかになった。

臨床1】68 歳女性。ラクナ梗塞後に軽度の左運動麻痺発現。器質性感情障害も発症。治療・リハビリの開始となった。その後、自宅にて転倒し左硬膜下血腫で意識混濁、血腫除去術が施行された。術後 7 ヶ月より顎関節痛が出現する。某大学病院歯科口腔外科、某歯科医院、某病院歯科口腔外科など転々とし紹介来院となる。初診時、顎顔面領域に広範囲に及ぶ圧痛や接触痛あり。通院中の脳外科クリニックに対診し、リリカ内服投与を開始し段階的に増量した。口腔内アロディニアが消失した濃度で維持に移行した際に再度脳梗塞を発症し緊急入院となる。退院後、投薬を継続しながら段階的に減量し、やがて断剤した。顎顔面領域の疼痛は消失したが異常感覚（口腔内違和感）を改善することは出来なかった。

【ご略歴】

1987 年	松本歯科大学卒業
1987 年－1991 年	大阪歯科大学歯科麻酔学講座臨床研修員
1991 年－1995 年	大阪歯科大学大学院（歯科麻酔学専攻）
1995 年－1997 年	大阪大学医学部解剖学第二講座 助手
1997 年－2000 年	兵庫医科大学解剖学第二講座 講師
2000 年－2002 年	松本歯科大学口腔解剖学第一講座 助教授
2002 年－2008 年	松本歯科大学大学院顎口腔機能制御学講座 教授
2008 年－2016 年	松本歯科大学口腔解剖学第一講座 教授
2017 年－現在	松本歯科大学口腔解剖学講座 教授

【一般演題・抄録集】

1. 下顎枝矢状分割術術後のオトガイ部知覚異常発症に関連する因子の解析

1) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 口腔顎顔面外科学分野

2) 宮崎県立宮崎病院 歯科口腔外科

3) 鹿児島医療センター 歯科口腔外科

○柚木寿理¹⁾、中園賢太¹⁾、東翔太朗¹⁾、上栗裕平¹⁾、成 昌奂¹⁾、野村綾子¹⁾、
古閑 崇¹⁾、品川憲穂¹⁾、本庄希江¹⁾、吉村卓也¹⁾、瀧上貴央¹⁾、松本幸三²⁾、
手塚征宏¹⁾、鈴木 甫¹⁾、岐部俊郎¹⁾、石田喬之¹⁾、中村康典³⁾、大河内孝子¹⁾、
石畑清秀¹⁾、野添悦郎¹⁾、中村典史¹⁾

下顎枝矢状分割術術後のオトガイ神経異常残存症例と CT 画像所見との関連について本学会会報誌 18 号にて報告した。今回、症例数を増やし 1 年以上知覚異常残存した症例を中心に検討したので報告する。

2. Obgeweser II 法骨切り術後の知覚回復過程

—特に自覚症状の記録・記載方法についての 1 考察—

1) 社会医療法人大道会 森之宮病院 歯科診療部

2) 同ボバース記念病院 歯科診療部

○高崎義人¹⁾、兵頭美穂¹⁾、猪飼祥子^{1、2)}、旭 吉直^{1、2)}、大道士郎^{1、2)}

Obgeweser II 法骨切り術は下顎骨より神経血管束を剖出し内側下顎骨を離断するため知覚障害発現の可能性が高いと言われている。今回、術後知覚回復過程を観察し自覚症状の評価について検討したので報告する。

3. 下歯槽神経温存した下顎骨骨髓炎による区域切除術の 1 例

大阪警察病院 歯科口腔外科

○石濱孝二、田中徳昭、原 崇之、外川健史

下顎骨骨髓炎で区域切除適応となった症例では腫瘍切除時とは異なり、下歯槽神経を温存することが可能である。区域切除する下顎骨から下歯槽神経血管束を比較的安全に抜き出す 1 つの手法について供覧する。

4. 顎口腔領域に発生した良性軟部組織腫瘍において知覚神経を温存し摘出した2例

大阪警察病院 歯科口腔外科

○原 崇之、田中徳昭、外川健史、石濱孝二

顎口腔領域に発生した良性軟部組織腫瘍は悪性腫瘍と異なり、知覚神経の温存が可能となる。オトガイ神経と接する下顎歯肉脂肪腫、舌神経と接する口腔底アミロイドーシスの2例に関して供覧する。

5. デンタルインプラント埋入による下歯槽神経障害に対しフィクスチャー挙上を選択した1症例

1) 医療法人社団ムラヤマ歯科

2) 東京歯科大学口腔外科

3) 松本歯科大学総合診療科

○村山雅人^{1, 2)}、村山偉知朗^{1, 3)}

インプラント埋入による下歯槽神経障害に対してフィクスチャー撤去を行うと、外傷性神経腫を形成しアロデニアを引き起こす事が多い、今回は撤去ではなく下顎管上壁までの挙上にて良好に治癒した症例を報告する。

6. 耳前部における耳介側頭神経の走行に関する解剖学的研究

1) 奥羽大学歯学部口腔外科学講座口腔外科学分野

2) 会津中央病院歯科口腔医療センター

○白田真浩¹⁾、浜田智弘²⁾、御代田 駿¹⁾、高橋文太郎¹⁾、川嶋雅之¹⁾、神林直大¹⁾、川原一郎¹⁾、金 秀樹¹⁾、高田 訓¹⁾

耳介周囲の耳介側頭神経の詳しい走行については不明な点が多く、耳介側頭神経損傷による偶発症を生じた症例も報告されている。そこで日本人成人遺体を対象とし、耳前部の耳介側頭神経の走行位置を測定し検討した。

7. ミクログリア KCNMB3 による神経障害性疼痛の制御

- 1) 九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面外科分野
- 2) 九州大学大学院歯学研究院口腔機能分子科学分野

○今利一寿^{1, 2)}、石井広太郎¹⁾、矢内雄太¹⁾、大山順子¹⁾、熊丸 渉¹⁾、森 悦秀¹⁾、
林 良憲²⁾

我々はミクログリアの活性化に關与する Ca^{2+} 活性型 K^+ (BK) チャネルの中でもミクログリアに特異的なサブタイプである KCNMB3 の存在を見出し、KCNMB3 のノックダウンによりアロディニアが有意に抑制されたことを報告する。

8. 東京医科歯科大学顎顔面外科における下顎水平埋伏智歯抜歯の臨床統計的検討 第4報

- 1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面外科学分野
- 2) 東京山手メディカルセンター 歯科
- 3) 本山デンタルクリニック
- 4) ミエ歯科医院
- 5) みどり小児歯科

○熊谷順也^{1, 2)}、小林明子¹⁾、澤田真人³⁾、望月美江⁴⁾、山崎裕子¹⁾、香月祐子¹⁾、
小杉真智子¹⁾、星 礼子¹⁾、和氣 創⁵⁾、依田哲也¹⁾

下顎水平埋伏智歯抜歯は頻度の高い手術であるが術後の合併症も多い。今回当科にて埋伏智歯抜歯施行した術後合併症について、2017 年と 1992 年 (25 年前) 及び 2012 年 (5 年前) のデータと比較検討したので報告する。

9. 低速ストレートハンドピースを使用する下顎埋伏智歯摘出術について

- 1) 鹿児島大学医歯学総合研究科口腔顎顔面外科学分野
- 2) アイルランガ大学口腔外科

○エリサ ハイラニ^{1, 2)}、モハメド スパン アミール^{1, 2)}、クーン プラモノ²⁾、
野添悦郎¹⁾、中村典史¹⁾

口腔外科における最も一般的な外科的処置は、上顎および下顎埋伏第三大臼歯の摘出 (Odontectomy: 抜歯ではない) である。インドネシア アイルランガ大学口腔外科では下顎第三大臼歯摘出後の神経損傷を避けるために、低速ストレートハンドピースを使用する歯冠 (歯根) 切断テクニックを用いている。本法は直視的な視野が確保され、安全な方法といえる。

10. 歯周組織再生剤が原因と考えられたオトガイ神経知覚麻痺の1例

公立学校共済組合九州中央病院歯科口腔外科

○佐々木匡理、碓 竜也、平山真敏、堀之内康文

近年、歯周組織再生剤（ヒト bFGF 製剤）による歯周再生療法が保険適用となり、多くの施設で実施されている。今回われわれは、歯周組織再生剤が原因と考えられたオトガイ神経知覚麻痺の1例を経験したので報告する。

【スキルアップセミナー】

『インプラント治療、下顎智歯抜去の神経障害を防ぐために』

1. 口腔インプラントと神経障害 ―原因とその対策―

松本歯科大学特別専門口腔診療部門 八上 公利 教授

インプラント治療を行う場合には手術による侵襲があり、術野や周辺組織に偶発的に神経損傷を起こす可能性が高い。その理由として、解剖学的特徴から下顎臼歯部のインプラント治療では下歯槽神経を傷害することが多く、下顎周囲では舌神経、上顎では眼窩下神経なども損傷されることがある。いずれも局所麻酔施行時や手術器具の不適切な操作による。また、術中や術後数時間は局所麻酔が奏功しており、発見や症状の確認が遅れる。障害の早期の回復には、インプラント体の引き上げや除去といった外科的アプローチが必要となるが、患者への侵襲的負担が増すばかりでなく完全回復は困難で、症状の消失や機能回復に時間を要する。このような神経損傷を予防するためには、術前検査による神経の走行の確認と埋入するインプラント体の長さなど神経までの距離に余裕をもった設計が必要で、術中も埋入深度や方向を常に確認する必要がある。最近では、このような危険を回避するために、3次元CT画像とCAD/CAMを駆使したサージカルガイドやローカルGPSによるナビゲーションサージェリーなども導入されつつある。

【ご略歴】

1984年3月 松本歯科大学卒業
1988年3月 昭和大学大学院歯学研究科卒業
1988年4月 昭和大学歯学部第2口腔外科学教室 助手
1990年11月 米国ペンシルバニア大学歯学部解剖細胞生物学 臨床研究助手
1993年6月 昭和大学歯学部顎口腔疾患制御外科学教室 講師
2000年4月 昭和大学烏山病院歯科口腔外科 科長
2008年4月 松本歯科大学歯学部社会歯科学講座 准教授
2013年1月 松本歯科大学口腔インプラント科 准教授
2018年12月 松本歯科大学特別専門口腔診療部門 教授

2. 下顎智歯抜歯後の知覚異常症例

ーパノラマX線写真でどれだけリスクを予測できるかー

松本歯科大学口腔顎顔面外科学講座 芳澤 享子 教授

下顎埋伏智歯抜歯は口腔外科領域で最も頻度の多い小手術であるが、その術後偶発症として下歯槽神経損傷にともなう下唇・オトガイ部の知覚異常がある。いったん発生すると患者の精神的、肉体的負担が大きいと、それを回避するには術前の慎重な検討が必要である。パノラマX線写真より簡便にリスクを予測するために、2015年4月から2018年3月まで当院で施行された下顎埋伏智歯抜歯症例1,483歯に関して、診療録、画像を用いて後方視的に調査した。術後の下唇・オトガイ部知覚異常発生例は25歯(1.6%)であった。これらの症例は、歯軸傾斜(Winter分類)では逆生が66歯中6歯(9.09%)と多く、埋伏状態(Pell-Gregory分類)ではIIIBが142歯中7歯(4.93%)、下顎智歯歯根と下顎管の重なり(apex position)では、Ap3が62歯中12歯(19.35%)に多く認められた。これらは全例において、抜歯に伴う下歯槽神経損傷のリスクが高いとされる、根尖と下顎管との近接が疑われるパノラマX線所見を有しており、歯科用コーンビームCTにおいても歯根と下顎管との接触が確認された。以上よりパノラマX線写真の慎重な検索が、知覚異常発生リスクを予測する上で重要であると考えられる。さらに対応についても言及する。

【ご略歴】

1990年3月 新潟大学歯学部卒業
1994年3月 新潟大学大学院歯学研究科修了
1994年4月 群馬県伊勢崎市民病院歯科口腔外科 医員
1995年4月 新潟大学歯学部附属病院第一口腔外科 医員
1997年4月 新潟大学歯学部口腔外科学第一講座 助手
1999年2月 米国ミシガン大学顎顔面口腔外科学講座留学(文部科学省在外研究員)
2000年3月 新潟大学歯学部附属病院口腔再建外科 助手
2003年1月 新潟大学大学院医歯学総合研究科顎顔面再建学講座組織再建口腔外科学分野 助手
2007年4月 新潟大学大学院医歯学総合研究科顎顔面再建学講座組織再建口腔外科学分野 助教
2011年8月 新潟大学医歯学総合病院口腔再建外科 病院講師
2013年7月 新潟大学医歯学総合病院口腔再建外科 講師
2016年4月 松本歯科大学歯学部口腔顎顔面外科学講座 教授
2018年3月 松本歯科大学歯学部口腔顎顔面外科学講座 主任教授